科目ナンバリング	U-LAS29 20033 SJ48						
授業科目名<英訳>	日本語教育演習 Seminar on Japanese Language Education			担当者所属職名・氏名	国際高等教育院 教授　パリハワダナ　ルチラ		
群	外国語科目群		分野(分類)			使用言語	日本語
旧群		単位数	2単位	週コマ数	1コマ	授業形態	演習（外国語）（対面授業科目）
開講年度・開講期	2026・前期	曜時限	木2	配当学年	1回生	対象学生	留学生

[授業の概要・目的]

日本語学習者の「日本語学習の目的」として「日本語そのものへの興味」が常に上位にランキングされる。その理由は果たして何だろうか。学習者が惹かれる日本語の特徴とは何か。本授業では、文学部・文学研究科の学生と共に、「魅力的な日本語」及び「難しい日本語」の学習項目を選定し、多角的に分析する。日本人学生・日研生を含む混在グループで、誤用分析、用法分析、教科書分析等を行いつつ、日本語の魅力、特徴に迫る。

[到達目標]

本授業の到達目標は、
(1) 日本語教育の基礎を学びつつ、選定した学習項目・用法を基にその基礎的応用力を習得すること
(2) 日本語に対する相対的な見方を形成しつつ、その背景にある社会文化的な諸要素に対する理解力を高めることである。

[授業計画と内容]

以下の通りに進めていく予定であるが、履修者の興味や背景に応じて変更する場合もある。

第1回　ガイダンス、初級日本語学習者の言語行動の疑似体験、テーマ選定・グループ形成
第2回　日本語学習者の初歩的動機・グループワーク①：選定した学習項目の特徴・初級学習者を惹きつける要因の分析
第3回　学習ニーズと多様な日本語（やさしい日本語、アカデミック日本語、ビジネス日本語、専門日本語）・グループワーク②：学習ニーズへの配慮
第4回　コースデザイン・グループワーク③：コースにおける位置づけ・到達目標設定
第5回　教授法とシラバス・グループワーク④：教授法の検討
第6回　漫画・アニメ・J-Popの日本語・グループワーク⑤：メディアの活用法及び教材化の課題と利点
第7回　教室活動・グループワーク⑥：教室活動と教科書分析
第8回　中間発表会と前半の総括
第9回　学習困難な日本語――学習を困難にしている要因とは？・グループワーク⑦：テーマ選定・グループ形成及びアウトライン作り
第10回　自然な日本語と教科書で用いられる日本語の問題点・グループワーク⑧：典型的な使用場面と状況
第11回　教科書分析の方法・グループワーク⑨：教科書分析
第12回　転移と習得・グループワーク⑩：他言語との比較
第13回　誤用分析の方法・グループワーク⑪：誤用分析
第14回　学習者ビリーフと動機付け⑫：期末発表の準備
≪グループ別期末発表≫
第15回　フィードバック

日本語教育演習(2)へ続く↓↓↓

日本語教育演習(2)

[履修要件]

日本語・日本文化研修留学生、文学部、文学研究科の学生専用科目

[成績評価の方法・観点]

以下の通りに評価する。
　授業活動への参加度合：30%
　中間発表・中間レポート：30%
　期末発表・期末レポート：40%
なお、演習科目であるため出席も重視する。

[教科書]

使用しない
プリントを配付

[参考書等]

（参考書）
白川博之監修 『中上級を教える人のための日本語文法ハンドブック』（スリーエーネットワーク）
ISBN:4-88319-201-6
川口義一・横溝紳一郎 『成長する教師のための日本語教育ガイドブック（上）』（ひつじ書房）
ISBN:4-89476-251-X
川口義一・横溝紳一郎 『成長する教師のための日本語教育ガイドブック（下）』（ひつじ書房）
ISBN:4-89476-252-8

[授業外学修（予習・復習）等]

参加者には事前準備や授業外の共同学習を積極的に行うことが求められる。

[その他（オフィスアワー等）]

木曜日４限（14:30〜16:15）をオフィスアワーとする。
研究室：旧石油化学教室本館棟105号室
E-mailアドレス：palihawadana.ruchira.8n@kyoto-u.ac.jp

[主要授業科目（学部・学科名）]